

## 令和 5 年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和 5 年 10 月 26 日（木）14：00～16：30

場 所：WEB（ZOOM）会議のため、各施設にて

出席者：12 名

仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、横田美佐（県立宮古病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、島袋百代（ハンキョウジャハン沖縄アフィリエイト）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、上原弘美（友愛医療センター）、富里果林（南部医療センター・こども医療センター）、大久保礼子（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）

欠席者：5 名

伊禮智則（那覇市立病院）、樋口美智子（沖縄国際大学）、西村克敏（地域統括支援センター）、増田昌人（琉球大学病院）、有賀拓郎（琉球大学病院）

陪席者：2 名

杉村宏美（糸満市市民健康部）、松田亮子（琉球大学病院事務）

## 【報告事項】

## 1. 令和 5 年度第 2 回情報提供・相談支援部会議事要旨(令和 5 年 7 月 13 日)

資料 1 に基づき、仲宗根委員より、令和 5 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

## 【協議事項】

## 1. がん相談員実務者研修会の開催について

資料 2 に基づき、玉城委員より、中部病院主催で第 2 回がん相談員実務者研修会を 11 月 11 日にオンライン開催と報告があった。参加希望者 15 名。在宅医療に向けて、連携する医療者へ薬剤についてどのようにすると伝わりやすいか等グループワークを行う。また、大久保委員より、琉大病院主催で第 3 回実務者研修会を 12 月 16 日に日程変更し開催予定と報告があった。共催に沖縄県医療ソーシャルワーカー協会が企画にも関わっており、川村隆彦先生の講義とグループワークを予定している。その他、大久保委員より、次年度の研修企画について、例年年 3 回実施している、がん相談員実務者研修会を年 1 回に変更してはどうかと提案があった。全国的に年 3 回実施している県は非常に少なく、オンライン研修開催も増えていることから現在の運営で各病院の負担や参加状況、参加機会の確保等を踏まえて県内で年 3 回実施でなくてもよいのではないかと。

また、指定要件の変更があり、県拠点が研修計画し、地域拠点は県拠点等の主催する研修に参加する事となった事が主な理由。部会員の皆様に企画内容について意見をいただきながらも、主催は部会と琉大病院（部会事務局）が行う形を想定していると説明された。仲宗根委員より、研修後のアンケートで参加者の意見に部会として応えられているのか気になることもあった為、部会で話し合い計画をしっかりと練っていくのはいいと思う。また、玉城委員より、企画している研修内容が皆さんの必要としている企画なのかと思うこともある為、県拠点と一緒に企画運営することで学びや安心感があるとの意見もあった。大久保委員より、部会とは別に年 1、2 回ミーティングをおこない、離島のご意見や非拠点の学びたい事などを聞かせていただきながら計画していきたいと説明され、承認された。

## 2. 協議会での検討事項について（増田委員よりメール審議）

増田委員欠席の為メールでの審議となった。資料 3 に基づき、仲宗根委員より、議題の趣旨は、上位 5 項目の選定について、部会として取り組むことなのか拠点病院等として取り組むことなのかと質問があった。部会としてとなると部会に参加している医療機関が考えるのか、また部会で県全域の事を皆で考えるのか、拠点、非拠点がやっていくべきことも考慮しないといけない等、順位付けが非常に難しかったと意見があった。友利委員より、部会として、病院として取り組むのか、県は県が取り組んで欲しいことなど選定の際に悩んだが、部会でもロジックモデルで協議していたため主語と要点を絞って、部会計画に活かせるといいのではと意見があった。大久保委員より、問題提起について増田委員から後日説明いただく事とし、今回は上位 5 項目以外で部会として抑えておいた方がいい項目や入れたい項目についての意見をいただくところまでではどうかと提案があった。小波津委員より、県の新たながん計画については、がん診療連携協議会案に記載されている個別施策の一部要素を取り入れ、県の事務局において素案を作成し、県が設置する検討会による検討を経て、先日県知事の諮問機関である沖縄県がん対策推進協議会において協議をしたところ。本日の議題である個別施策については、がん診療連携協議会案に記載されている施策であるため、これに関しては、部会の取り組みとして検討いただくもののご理解いただきたい旨の意見があった。また、作成中の県の素案については必要であれば提供しますので参考にしてくださいとの事。その他、県のがん計画に新たにアピアランスケアが盛り込まれ、さらに、市町村のアピアランス事業に対する県補助金を検討中であるため、同事業の導入が進めば、今後、相談支援センターへのアピアランスについての相談が増えていくことが想定されるため皆様のご協力をいただきたいとアナウンスがあった。

### 【報告事項】

## 2. 糸満市がん患者アピアランス支援事業

資料 4 に基づき、糸満市市民健康部の杉村さんより、糸満市がん患者アピアランス支援事業の概要の説明があった。アピアランスケアに対して糸満市が購入費用の一部を助成する事業が 10 月から始まり広報にも載せている為申請の問い合わせが増えていた。ウィッグの申請が 1 番多く、問合せの事例として、病院で手術し通院も終わっている為ウィッグの相談をどこにしたらいいのかわからない、また、ウィッグを購入したいけどまだ迷っている等があった。糸満市のホームページに相談窓口として情報を載せている、琉球大学病院と那覇市立病院へ案内しているとのことだった。事業のチラシに関して、ホームページからダウンロードできると周知があった。また、ホームページに Q&A を掲載し随時更新しているが、細かいことでわからない場合は糸満市へ直接お問い合わせいただくよう案内してほしいと要望があった。

### 3. 地域統括相談支援センター活動報告

資料 5 に基づき、紙面報告となった。

### 4. がん患者ゆんたく会 (7~9 月)

資料 6-1~6-3 に基づき、令和 5 年 7 月~9 月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院は玉城委員より報告があった。7 月はフラダンスの講師を招いて、音楽に合わせて体を動かしたりリズムに乗って踊ったりした。8 月は西加奈子さんの『くもをさがす』という本を紹介しながら、自分が今興味のあるものや好きなもの、癒されるものなどの話をしながらフリートークを行った。9 月に新規で参加された方が、食事について知りたいとの事で 10 月のゆんたく会で、栄養士を招き栄養や食事について参加者の気持ちを聞きながらゆんたく会を開催する。那覇市立病院は糸数委員より報告があった。7 月は前回の部会で報告しているため 9 月のみの報告となった。9 月は『自宅でできるツボ療法』について、実際にお灸を見たり手で触れたりし、症状によってのツボの話やツボを押すなどした。熱心にメモを取られる方や肩にお灸を盛る体験をし、充実した内容になったと思う。次回は 11 月 16 日に、ピアサポーターさんを招きフリートークで開催予定。琉大病院は友利委員より報告があった。7 月はコロナの再燃の影響か参加者はゼロだった。8 月は台風の影響で延期になった。9 月は当院のリハビリ医が、がん治療中の運動とリハビリについて講演をおこなった。がん治療中は体調も悪く、動いてはいけないと思っていたなどの感想があった。動きだけではなく、ゆっくり深呼吸するなど意識するとリラックス効果や整腸作用も期待できるとのことだった。質疑応答も活発で非常にいい会となった。下半期は延期となったカラーセラピーについて、またアピアランスケアに関する講演を開催予定。パンキャンジャパン沖縄支部は島袋委員より報告があった。7 月から 9 月は患者サロンの開催はなし。電話相談が 3 件あった。主に治療の副作用についての相談で 2 名の患者さんが 40 歳代で、同じような年代の方とお話したい

ということで 10 月に患者サロンを開催した。開催の状況は次回の部会で報告することとなった。

#### 5. がん相談件数（7～9 月）

資料 7-1～7-6 に基づき、令和 5 年 7 月～9 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

##### ○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

院外で入院中の方、当院通院中でない患者さんやご家族からの電話相談が増えている。院内の患者さんは在宅希望が多く介護の事や訪問診療の相談が徐々に増えてきている。2、3 日でも自宅に帰りたいとの事でご家族も入れてカンファレンス等おこない調整している。

##### ○県立中部病院（玉城委員）

7 月は電話相談が多くなっているが、全体的に見て大きく相談内容に変化はない。外来の先生から、ガンの告知をする時の同席依頼が多くあった。がん告知後の気持ちのサポート、次回の外来時にまた面談をした方がいいかなど確認しながら気持ちのフォローをおこなっている。また、治療で化学療法が必要になった時は認定看護師さんと連携するように心がけている。

##### ○那覇市立病院（仲宗根委員）

相談内容では、7 月はがんの治療についての相談が多かった。がん治療を続けた方がいいのか、どの治療を選択したらいいのか等相談があった。また、ホスピス緩和ケアの相談、入院の相談も多く、生き甲斐や価値観の相談もあった。8 月は 40 歳代の相談が多かった。9 月は電話相談が 7 月、8 月と比べて増加している。ホスピス緩和ケアの相談も多いが、在宅医療の相談では自宅で過ごす際の整え方などの相談も多かった。

##### ○県立宮古病院（横田委員）

相談内容に大きな変化はなかったが、初診で末期の患者さんの相談が目立っている印象。また、末期の患者さんや家族の相談では難渋しているケースが多かった。宮古は元々検診率が低く、宮古市や病院側で検診率を上げる為に宣伝し検診を促している。

##### ○県立八重山病院（岩崎委員）

前回と相談内容に大きな変化はなかった。今回は初めてピアサポーターの面談が 1 件あった。また、訪問診療の同行が 7 月は 29 件、8 月は 46 件、9 月は 23 件だった。在宅の訪問看護師さんとの連携を今後も続けていきたい。院外での活動として、沖縄県の産業保険から社労士さんと保健師さんがみえて両立支援の勉強会を開催したり、

高校に出向き、脱毛した患者さんが被るタオル帽の作成依頼と講義を行った。

#### ○琉球大学病院（大久保委員）

相談件数は比較的低く、相談内容はホスピスや在宅医療、外来患者さんの療養に関する相談が今期も多かった。また、治療期全体を通して医療費、生活費、社会保障制度、その他生活に関する相談の項目も多かった。初診時治療前の件数は 8～10 件位で、がん相談支援センターの案内のみの方もいるが、半数は医療費等の相談対応があった。院外の方は、主に治療方法、セカンドオピニオン、琉大の受診方法の相談があった。

#### 6. がん相談件数集計（4～6月）

資料 8 の通り、各拠点の相談件数集計の統計表に基づき友利委員より報告があった。今期は新指針の『外来初診時から治療開始までを目途に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制を整備すること』がでて一年が過ぎ、各病院の取り組みの成果がでている印象。前年度のデータと比べると、利用回数もそれに反映し初めての方の件数が増加し、がんの状況もほとんどの病院で初発の方の相談件数が伸びてきている。引き続き 7～9 月のデータの結果と前年度の結果と比べられるよう集計し報告する。

#### 7. がん相談支援センターの広報

資料 12 に基づき、がん相談支援センターの広報について友利委員より報告があった。毎週掲載するよう依頼し 1 回のみ掲載がなかった。引き続き広報依頼を行う。

#### 8. 令和 5 年度 第 1 回がん相談員実務者研修会について

資料 10 に基づき、糸数委員より報告があった。那覇市立病院主催で、第 1 回がん相談員実務者研修会を 9 月 23 日に対面で開催された。申込み者 21 名、受講者は 18 名。職種で一番多かったのが社会福祉士、次いで看護師が多く、2 名の障害支援事業所の相談支援専門員の参加もあった。経験年数は 5 年以上が多かった。研修会の開始時間と研修時間について、終了時間が 30 分くらい超過した為、終了時間のオーバーが気になったとの意見もあった。また、参加の動機について、テーマに惹かれたと回答があった。テーマは『障がいのあるがん患者への支援』について、オリブ山病院の地域連携室室長の宮里さんに講義していただき、症例を 2 件挙げその方への支援を深める内容となっていた。研修の内容理解、グループワークへの積極的な取り組みの達成度・満足度は高かった。今後研修会で取り上げてほしいテーマについて、信頼できる情報の見極め方と、高齢者や独居の方への支援、次が AYA 世代への支援と回答があった。意見・感想については、グループワークで医療関係者の意見や話が聞けて勉強になった、多職種の方と意見交換ができてよかった、沖縄県や県外でのがん支援やグ

リーフケアなど実際に行っている支援も学ぶ機会があれば嬉しいなどの意見もあった。

#### 9. ウィッグ&アピランス相談会

資料 11 に基づき、大久保委員より報告があった。がん相談支援センター主催で、2 回目のウィッグ&アピランス相談会を 10 月 19 日に開催した。気軽に立ち寄ってもらいウィッグに触れて相談のきっかけになるよう、開催場所を変更し、がん相談支援センター前にウィッグやパンフレットの展示をした。試着はがん相談支援センター内ででき、ウィッグの取扱店・マリブウィッグの美容部員の方に立ち会っていただき、入院患者 2 名の方が試着体験をした。1 回目の開催は病院のブースを貸し切り、化学療法中の脱毛・皮膚ケアについて、がん看護師の講義とウィッグやケア用品の使い方についてマリブウィッグに説明いただき、その後試着体験となっていた。

#### 10. アピランスモデル事業について

資料 12 に基づき、紙面報告。

#### 11. その他

(1) 友利委員より、国立がん研究センターのがん相談支援センター相談員研修の指導者研修について報告があった。仲宗根委員、糸数委員、友利委員が受講し、7 月に前期 9 月に後期があり受講終了したと報告があった。年に 3 回実施している相談員研修の企画や実施、評価をすることができる指導者の要請を目指す研修となっており、今後、企画などする際に学んだ事を生かしたいとのことだった。

(2) 上原委員より、リレーフォーライフの開催について周知があった。毎年 11 月に開催しているリレーフォーライフが今年 4 年ぶりに、11 月 11 日、12 日に浦添でだこ広場で開催となっておりイベントへの参加依頼があった。

・次回開催は、令和 6 年 2 月 8 日（木）14 時から開催。